

平成 20 年度 三番瀬再生事業（実施計画）の方向性について（案）抜粋

第 1 節 干潟・浅海域

No	事業名	事業の概要等	
		20年度事業の方向性	(参考)18・19年度事業の概況
1	1 - 1 干潟的環境（干出域等）形成の検討・試験 【企画調整課・検討G】	三番瀬では、埋立てによる干潟の減少や地盤高の低下による浅海域化の進行、汽水的な環境の場の減少等、自然環境が単調化しています。 そこで、現在残る干潟的環境を保全しつつ、三番瀬の多様な環境再生の試みとして干潟環境（干出域等）形成の試験及び淡水導入の試験の実施に向け、検討委員会の意見を踏まえ、引き続き事前環境調査を実施するとともに、試験計画及びモニタリング計画を決定し、漁業者、関係機関等との協議等を行います。	18年度決算額 11,482千円 19年度当初予算額 13,000千円 (* 1 - 1、1 - 2、5 - 3の合計額)
2	1 - 2 淡水導入の検討・試験 【企画調整課・検討G】		1 18年度は、庁内検討グループ検討会を5回開催し、検討会では必要に応じ学識経験者の助言をいただきました。「干潟環境形成の検討・試験」及び「淡水導入の検討・試験」については、(1)事例の収集及び課題の整理、(2)期待される機能、(3)試験(案)の検討等の調査を実施しました。 2 19年度に実施する三番瀬再生実現化推進事業においては、公開による(仮称)三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会の意見を聴きながら、具体的な試験計画及びモニタリング計画の検討、事前環境調査、試験による周辺環境への影響予測等を行います。

第 5 節 海と陸との連続性・護岸

No	事業名	事業の概要等	
		20年度事業の方向性	(参考)18・19年度事業の概況
24	5 - 3 自然再生（湿地再生）事業 【企画調整課・検討G】	現在の三番瀬は、海と陸との変化に富む自然なつながりが護岸によって断ち切られています。 そこで、自然なつながりを回復するための自然再生（湿地再生）について、検討委員会の意見を踏まえ、塩浜護岸の改修や地元市、関係機関等との協議調整を図りながら、再生する湿地の基本的事項を確定させていきます。	18年度決算額 11,482千円 19年度当初予算額 13,000千円 (* 1 - 1、1 - 2、5 - 3の合計額) 1 18年度は、庁内検討グループ検討会を5回開催し、検討会では必要に応じ学識経験者の助言をいただきました。 「自然再生（湿地）」については、事例収集、期待される効果、必要な条件、課題の整理等の調査を実施しました。 2 19年度に実施する三番瀬再生実現化推進事業においては、公開による検討委員会の意見を聴きながら進めます。 内容としては、市川市塩浜地区護岸部の市所有地における湿地再生を前提に、塩浜護岸の改修、環境学習の場としての利用等も考慮し、湿地環境、規模、構造、干潟環境形成との関連等を検討します。